

# ものづくりワールド 東京

## Report



これまで以上のニーズの高まりを実感

日本最大級を誇る製造業の展示会「第37回 ものづくりワールド [東京]」が、2025年7月9日～11日に千葉県の幕張メッセで開催されました。今回は、ITやDX製品、部品、設備、装置、計測製品など取り扱う1,975社が世界中から出展。来場者数は55,749名にもものぼり、さまざまな商談や意見交換が行われました。

### DAPDNA搭載の実機などを展示

今回、会場内は展示されるソリューションやサービスの種類で区別された10の構成展に分かれていました。その中で東京計器は、設備管理システム、点検・計測機器、補修・補給部材、修理サービス、作業工具などを取り扱う「スマートメンテナンス展」に出展。当社独自の画像処理プロセッサ「DAPDNA」<sup>※</sup>を搭載した省電力ファンレスAIカメラ「DAPDNA-CM100」やPCベース画像検査用フレームグラバースタック「DAPDNA-CP300/320」などの実機を

展示するとともに、画像判定AIモデルを簡単に実装できる「エッジAI画像検査システム構築環境」について紹介しました。

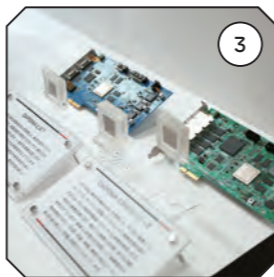
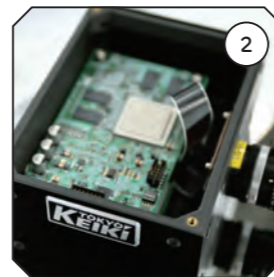


①



### 「良否判定」や「部品分別」を可能に

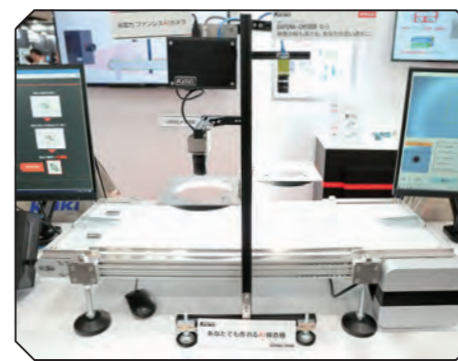
DAPDNAは現在、産業系の用途がメインとなっています。例えば、AIカメラ「DAPDNA-CM100」を利用してエッジAI画像検査システムを構築することで、工場のラインを流れている製品に欠陥がないかを判断できる「良否判定」や、特徴をもとに部品を判別して仕分ける「部品分別」などが実現可能。さらに当社では、手間も時間もかかると恐れがちなAI学習を簡単に行えるようサポートする「画像AI簡単学習プログラム」なども提供しています。



MANUFACTURING WORLD TOKYO 2025

一方で、DAPDNAは新たな領域でのさらなる利活用も期待されています。例えば、〈低消費電力で発熱量を抑えられる〉という特長から、冷却ファン非搭載で完全密閉された〈防水仕様のAIカメラ〉の実現も不可能ではありません。これにより、例えば野外利用や食品系の工場などにも対応できるようになるため、「いままで設置できなかった場所への取り付けも可能になる」という点は将来的に大きな優位性になるといえます。

さらに、DAPDNAに対するニーズがこれまで以上に高まっているなかで、新しい使い方に関する問い合わせも増えています。当社としては、海外メー



④

カーとは違い「日本ならではのきめ細かなサポート」ができる部分においても、存在感を発揮していきたいと考えています。



⑤

①画像処理プロセッサ「DAPDNA」 ②省電力ファンレスAIカメラ「DAPDNA-CM100」 ③PCベース画像検査用フレームグラバースタック「DAPDNA-CP300/320」 ④省電力ファンレスAIカメラ「DAPDNA-CM100」と、それを利用したエッジAI画像検査システム ⑤当日、展示ブースではDAPDNAの開発者も来場者へ製品の魅力をアピールしていた

佐鳥電機株式会社 デバイスソリューション事業本部 営業推進部 K.Y様のコメント



昨年に引き続き今年も展示のお手伝いをさせていただきましたが、AI関連や画像処理に対する来場者の関心は非常に高く、会場の雰囲気からも「市場のニーズは相変わらず旺盛だ」と感じました。さらに言えば、将来的な労働人口の減少が避けられないなかで、AI関連の技術はあらゆる場所で必要とされるものになっていくでしょう。そういった状況を踏まえると、「AIの開発期間を大幅に短縮できる」というDAPDNAの特長は、今後の展開において魅力的かつ大きなメリットになると感じました。



第37回ものづくりワールド [東京] 東京計器ブースの様子はコチラ



※DAPDNAについては、「Tech Knack」前号 (No.130) に特集記事が掲載されています。詳しくは、<https://www.tokyokeiki.jp/company/report/>をご覧ください。

